



DESIGN GRADUATION WORKS 2020

会津大学短期大学部 産業情報学科 デザイン情報コース

卒業作品集

ごあいさつ

この「作品集」は、「デザイン情報コース卒業研究発表会」、「卒業研究発表会 研究要旨集」、「卒業展」と、広く一般の方々に公表し、ご批判を仰いでまいりました、会津大学短期大学部産業情報学科デザイン情報コース卒業研究ゼミナールの成果を示す、今年度最後のものです。「作品集」の発行も今年で16回目を迎えました。

産業情報学科では、卒業研究ゼミを必修科目として位置づけ、デザイン情報コースでは1年次の後半からプレゼミとして実施し、2年次より具体的なテーマ設定のもと、問題解決能力や創造性の研鑽に取り組んでまいりました。その内容はWebデザイン、グラフィックデザイン、漆工芸作品、建築や地域振興と様々ですが、いずれも地道な研究を裏付けとした力作です。

今年も具体的な地域の問題をベースとしたテーマが多く見られました。地域の活性化ということでは「奥会津にしかない魅力を伝えるためのデザイン提案」や「湯野上温泉集客プロジェクト」、東北の伝統文化を魅力的かつ次代につなげる提案としての「和紙の可能性を広げる」「浅舞絞りを蘇らせるデザイン」「木喰微笑仏のアーカイブと展示空間の研究」などが地域の方々との協力と本学で学んだ専

門分野の特長を活かし結実しております。その他にも会津の伝統産業である漆工芸の新たな提案作品や、地場産業の活性化につながる提案、子どもの知育、遊びの空間をテーマにしたものなど、各研究分野で学んできたことの集大成として見応えのあるものとなりました。

卒業する学生諸君には、学生時代の創作への熱意と、活力に満ちた日々証として、また、この卒業研究ゼミで経験したプロセスと反省を通じて、創造することの喜び、諸問題に挑戦するエネルギー、充実したときを過ごして得た達成感などを糧に、今後の社会生活の中でさらなる飛躍につなげていってほしいと願っています。

最後に、卒業研究および卒業制作にご支援、ご協力をいただきました学内外の関係者のみなさまに深く感謝し、厚く御礼を申し上げます。この作品集は広く学外にも配布してご高覧に供します。忌憚のないご意見、ご批判を賜れば幸甚に存じます。

2020年3月

会津大学短期大学部 産業情報学科

学科長 井波 純

目次

4	湯野上温泉集客プロジェクト 五十嵐 あみ 井上 唯 神田 朝香 星 亜花里	13	梁川町における原風景の魅力を伝えるデザイン提案 蠣崎波響の描いた梁川八景から着想を得て 渡邊 もも	24	漆のパブリックアートによる産地のアピール 佐藤 実花
6	手先のリハビリテーションで 使用する器具の提案 伊藤 朱音	14	奥会津にしかない魅力を伝えるためのデザイン提案 青山 葵 阿部 未夢 佐藤 有	25	女性の権利 女性の意思の尊重と明るい未来を考えるために 高橋 花乃
7	子供が数字に対して親しみをもてる計算ツール 佐藤 有理	16	会津若松市水道PR マスコットキャラクターの制作と展開 穴戸 亜優 水野 杏香	26	漆を用いた古代生物モチーフの積み木 寺島 由貴
8	和紙の可能性を広げる 十文字和紙の調査研究及び新たな活用、 空間デザインの提案 草薙 菜穂	18	中ノ沢こけしへの愛着を生み出すデザイン 橋内 菜奈	27	漆でつなぐ新しい文化 三嶋 萌
9	八戸における朝市調査研究及び 店舗ユニットの提案 沼口 綾香	19	浅舞絞りを蘇らせるデザイン 小松田 久遠		
10	木喰微笑仏のアーカイブと展示空間の研究 枇杷島十王堂木喰仏の調査と展示デザインを中心に 長谷川 陸	20	鬼クルミの普及を促すグラフィックツール 鈴木 智子		
11	木の遊具を考える 子どもの遊び空間の調査研究及び遊具提案 保坂 葉月	21	白河高原清流豚の美味しさを 広めるためのデザイン 平久保 翔子		
12	地域とつくる地場住宅 雪下 栞奈	22	茶道と漆の融合 熊久保 粹	28	卒業研究発表会・卒業展
		23	現状(いま)を伝えるために 佐藤 菜々	33	ゼミ紹介

湯野上温泉集客プロジェクト

五十嵐 あみ 井上 唯
 神田 朝香 星 亜花里

私たちは福島県下郷町の湯野上温泉と周辺の観光スポットの取材を行い、それらをまとめたコンテンツを制作した。湯野上温泉の情報を発信し、多くの観光客に来てもらうことがプロジェクトの目的である。コンテンツとしてWEBサイトや動画の制作、Twitterの専用アカウントによる発信をした。WEBサイトはスクロールにあわせて、人型の画像が動くことで、閲覧者が湯野上温泉と周辺の観光スポットを散策する疑似体験をできるようにした。動画は、私たちが実際に観光しながら紹介している動画と、観光地について詳細に説明したまとめの動画を制作した。Twitterでは観光スポットである夫婦岩をモチーフにし、「夫婦」にちなんだ会話や湯野上温泉のPRなどをツイートする。また、実際に湯野上温泉で展開できる例としてコースターのデザインも提案した。

- a. トップページ
- b. WEBサイト
- c. WEBサイト
- d. WEBサイト
- e. 観光スポットまとめ動画
- f. 観光スポット紹介動画「小野観音堂」
- g. 観光スポット紹介動画「中山風穴」
- h. 湯野上温泉駅紹介動画
- i. 夫婦岩をモチーフにしたTwitterアカウント
- j. コースター

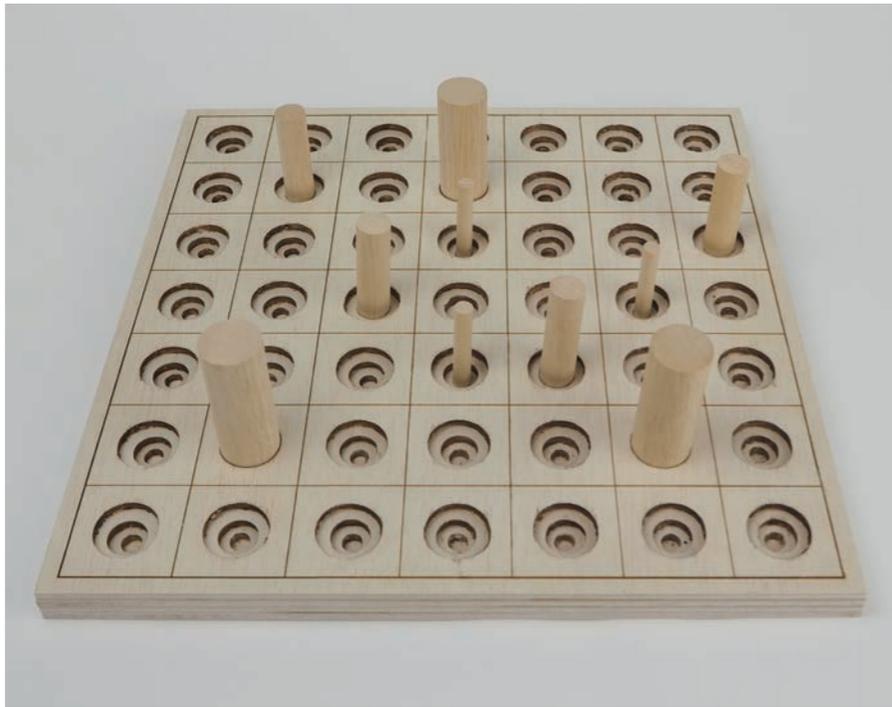
[技法・素材・サイズ]
 WEBサイト(トップページ):
 Dreamweaver, Premiere Pro, Illustrator, Photoshop
 1348×11267 pixel
 コースター:
 紙 9×9cm



手先のリハビリテーションで使用する器具の提案

伊藤 朱音

高齢化が進んでいる中で事故や病気により行動障害を持つ人が増加しており、介護施設やリハビリテーション(以後リハビリと呼ぶ)の質の向上が求められている。本研究では手先を使うことで脳も刺激されることから高いリハビリ効果が期待できると思い、手先のリハビリに着目した。現在のリハビリ器具は単調性が強いことから、強制的であったり、長時間の使用には向かないなどのデメリットが生じる。自作ベグボードの大きな特徴は、すべてのマスに3種類の異なる直径の穴があり3種類の太さのベグが挿せることである。このことから一人で使用する際の指示カードのバリエーション増加に繋がった。また二人での使用を可能にするため、三目並べができるよう「×」をモチーフとしたベグも製作した。3×3マスから5×5マスで対戦できることで難易度も変えられる。



a



b



c

a. ベグボード b. 二人で使用している様子 c. 指示カード

[素材・サイズ] ボード：シナベニア合板 42×42×2cm

ベグ：木材 直径1cm×高さ6cm、直径2cm×高さ7cm、直径3cm×高さ8cm 指示カード：ケント紙 8.6×5.4cm

子供が数字に対して親しみをもてる計算ツール

佐藤 有理

日常生活でよく使用する数字に対して、幼児期の子供が親しみ、興味が持てる計算ツールとなるよう制作した。小さい子供が扱いやすいようにカードを使用し、カードにQRコードを記載して、それをスキャンすることにより回答ができるようにした。問題には数字そのものを表示するのではなくどんぐりに置き換え、カードには数字とその数のどんぐりの絵を記載することにより、数字とどんぐりが一対一の関係となり覚えやすくなるよう工夫した。足し算では箱に落ちてきたどんぐりの総数、引き算では袋の中に残ったどんぐりの総数が解となっている。子供が親しみを持ちやすいように、童謡や童話に使われるどんぐりをモチーフとした。Node.jsを使用することで、リアルタイムで反応が返るためゲーム使用中にロードの時間がかかるといった不快感がないようにした。



a



b



d

a. プロトタイプ一式 b. 実際に使用している様子 c. 足し算 d. 引き算

[技法・素材・サイズ] Premiere Pro、After Effects、Notepad++、Node.js (React.js)

カード：8×6cm カードリーダー：11.5×7×10cm

和紙の可能性を広げる

十文字和紙の調査研究及び新たな活用、
空間デザインの提案

草薙 菜穂

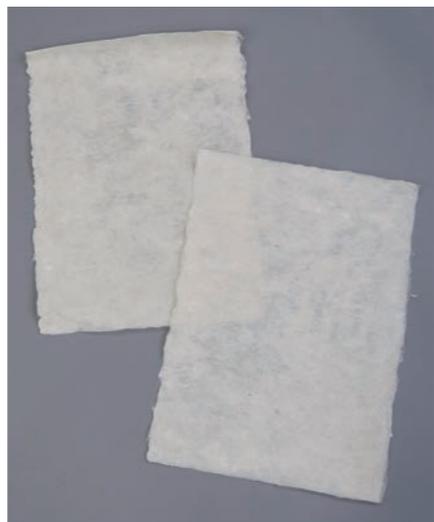
十文字和紙は、横手市十文字町睦合において、江戸中期に始められたと言われている。最盛期で50軒にも及ぶ紙漉き場があり、大正時代になっても十数軒が紙を漉いていた。しかし、現在では十文字和紙は衰退し、職人は1人となっている。そのため、本研究では十文字和紙を後世に残すために、十文字和紙の調査研究やデザイン提案を行った。調査するなかで、十文字町と茶屋には深い関わりがあることが分かった。十文字和紙を残していくために、この茶屋の歴史と関連付けることも新たな活路となると考えた。今回は、三島町の方にご協力をしていただき和紙を材料から作り、実際に作品に使用した。茶室には、秋田県や十文字町らしさを感じるデザインを取り入れた。また、和紙を使ったデザインを研究・製作したことで、和紙の可能性を広げるきっかけとなった。



a



b



c

a. 茶室外観 b. 建具(床の間、障子) c. 三島町の和紙作家である半沢さんのもとで漉いた和紙

[素材・サイズ] 和紙: 楮 42.5 × 29.5 cm
茶室: 杉材、シナ合板 150 × 150 × 160 cm

八戸における朝市調査研究及び 店舗ユニットの提案

沼口 綾香

近年朝市は全国各地で行われている。集客力を伸ばし、観光化している朝市がある一方で、継続が難しくなっていて衰退を辿る朝市もある。様々な可能性を秘めている朝市が今後も継続していくことができるように、調査研究を行った。また、仮設店舗は組み立てや持ち運びが簡単であることから、朝市だけでなく祭りやチャレンジショップに使用されている点で、需要が高いことが分かる。よって本研究では、朝市を調査するとともに、朝市で活用しやすいユニットを考えることも目的とした。簡単に組み立てられる構造とし、持ち運びも容易にした。アーチの屋根で目を引くデザインとすることで、訪問者の増加も期待できる。今回は花屋のユニットを製作したが、他の店にも応用できるデザインとした。並べることにより、朝市に統一性を産み出すこともできると考えた。



a



b



c

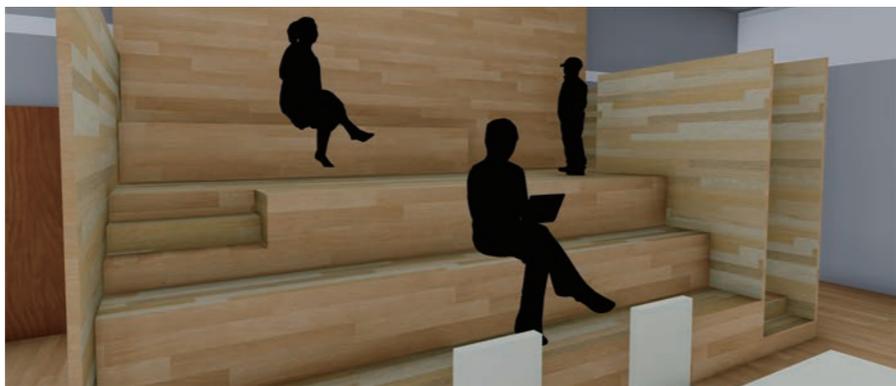
a. 組み立てた店舗ユニット b. 屋根の構造 c. 運搬時の屋根

[素材・サイズ] シナランバーコア、ポリカーボネート、杉材
160 × 160 × 210 cm

木喰微笑仏のアーカイブと展示空間の研究
 枇杷島十王堂木喰仏の調査と展示デザインを中心に

長谷川 陸

本研究の目的は木喰仏の適切な保存を可能とし、気軽に拝謁できる展示空間を提案することにある。昨今の仏像ブームにより仏像は嚴重に保管されるようになってきているが、木喰仏も盗難防止の理由から、鉄格子に囲われているものやガラスケースの中に展示されていて、木喰仏本来の姿を見ることができなくなっているものが多い。そこで盗難対策にも気を配り、安らぎのある空間を提案しようと考えた。展示空間の想定は、新潟県柏崎市枇杷島十王堂を建て直す提案をする。調査の中で枇杷島十王堂にある木喰仏は、十王が題材であるが十王のうち三体が柏崎市立博物館に貸し出されており、十王が揃っていない現状にあることを知った。点群データを活用したデータ保存利用によりデータ上で十王仏全てが揃った本来の姿を見ることが可能にすることも考慮した。



a. 木喰仏3Dモデル(閻魔) b. 全体模型 c. 屋外から見た展示空間夜景 d. 交流のための空間(木喰仏の紹介・研究スペース)

[素材・サイズ] 3Dモデル: AutoCAD, SketchUp, PhotoScan, lumion
 模型: シナベニア, アクリル板, スチレンボード 131.5×91×15cm

木の遊具を考える

子どもの遊び空間の調査研究及び遊具提案

保坂 葉月

本研究では、子どもの遊び空間を木質化することによって、それがどのように子どもへ影響を与えているのかを調査した。この調査により、本研究の目的を「子どもの創造性を引き出し、五感を刺激するような、木材の良さを生かした子どもの遊具を製作する」と設定し、球を転がすと、からころと音が鳴る木製のレールの遊具を製作した。これは、壁にレールを設置し、自由にコースをつくりながら遊ぶことができる。実際に遊んでもらうと、工夫して楽しそうに遊べていたため、子どもの創造性を引き出すデザインになったと感じた。考察から、子どもの遊具は、子どもの成長にとって意義のあるものを考えるだけでなく、安全性も考慮することが大切だと分かった。また、遊び方にも個性が見受けられたため、子どもたちの社会性の形成も誘発できたのではないかと考えられる。



a. 2種類の壁材 b. 作品全体 c. 木の球を転がして遊ぶ様子

[素材・サイズ] 杉材, シナ積層合板, プナ, マグネットシート
 壁材: 150×94×3cm レール材: (長)4.8×30×3cm (短)4.8×15×3cm (L字)12.6×35.2×3cm 杭材: 9cm



地域とつくる地場住宅

雪下 栞奈

福島県内には技術を持った工務店・設計事務所・大工がいる。しかし近年、ハウスメーカーに押されているのが現状である。調査したことを踏まえ、地域の設計事務所・工務店・大工・職人が協働で建てる地域に根付いた住宅を提案することで、災害時の住宅提供や地方建築業界の人材活用につながると考えた。本研究では、地域の材料と人材を積極的に活用できる住宅はどのようなものか研究・提案することを目的とする。大断面集成材フレームでできたユニットと、伝統工法を用いたボックスを組み合わせて、居住空間をつくった。ユニットを工場等で製作し、トラックを用いて運搬することを想定した。これにより、短期間・ローコストで施工可能な住宅の仕組みとなるようにした。これらの組み合わせ方により住む地域の環境に合わせた居住空間の提案が可能となる。



a



b



c

a. 模型全景 b. 模型内観(ユニットとボックス) c. 2階の様子

[素材・サイズ] シナ積層合板、シナランパコア
130×62×82cm

梁川町における原風景の魅力を伝えるデザイン提案

蠣崎波響の描いた梁川八景から着想を得て
渡邊 もも

福島県伊達市梁川町には蠣崎波響の作品である「梁川八景図」に描かれた風景がある。蠣崎波響とは、松前藩の家老を務め画人としても活躍していた人物である。江戸時代の国替で梁川町に14年間滞在していた際に「梁川八景図」を描いている。梁川町では昨年10月に発生した台風19号の影響で景観が変わってしまう状況にあり、如何に地域の景観を維持し、修景するかが重要な課題となる。本研究では梁川町の風景に関するアンケート調査を行い、「梁川八景図」に描かれている風景が現代においても美しい風景と認識されているのかを調査するとともに、「梁川八景図」には描かれていない美しい景色も抽出した。さらに梁川町の原風景の魅力を再認識してもらい景観を保存していけるように、調査で得られた結果を基に原風景の魅力を伝える展示会を行った。



a



b

a. 梁川の風景を描いた水彩画 b. 展示会場の様子 c. 地形模型

[技法・素材・サイズ] 水彩画: 水彩 (作品)紙 F4 (額縁) 杉材、シナ積層合板 39.5×47cm、32×40cm
地形模型: シナ積層合板 110×110×7cm



c

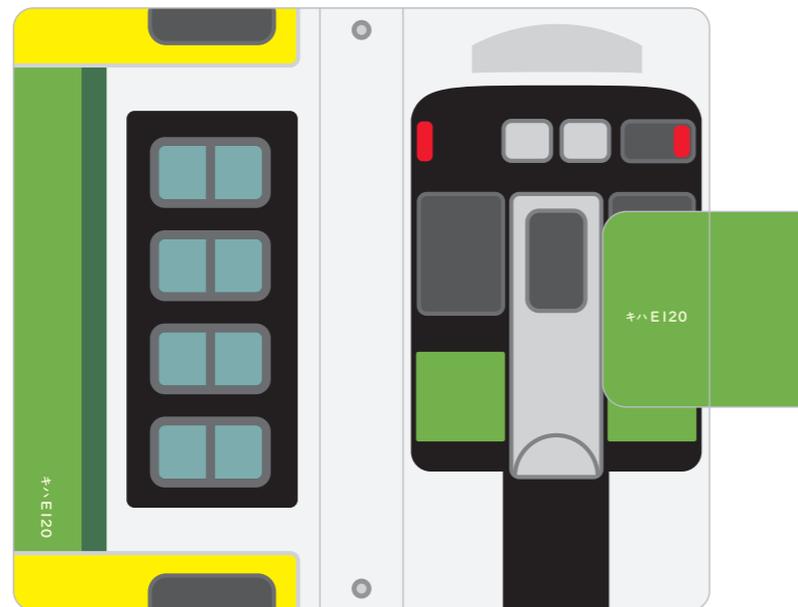
奥会津にしかない魅力を伝えるためのデザイン提案

青山 葵 阿部 未夢 佐藤 有

奥会津地域は全国的に見ても人口が少なく、少子高齢化が進み過疎化などの社会問題を抱えている。しかし、只見線の完全復旧が決定したこと、只見町にゆかりのある河井継之助の映画「峠」が2020年に公開されることにより、今後奥会津を訪れる交流人口の増加が期待されている。そこで私たちは、奥会津を訪れた人々に、より奥会津の良さを発信できるようなツール制作を行っていくことに決定した。二次交通の活用を促進させること、若い観光客に向けて新たな視点から奥会津を紹介することなどを目的とし、2種類のパンフレットを制作した。また、只見線が完全復旧するまでの応援プロジェクトとしてロゴ、ロゴから展開したグッズも制作した。制作物を通して、奥会津の新たな視点から見た魅力や奥会津の復興や交流人口の増加へとつながるきっかけになったと思う。



只見線応援プロジェクト
Tadami Line Support Project



- a. ロゴ
- b. トートバッグ
- c. スマホカバー
- d. パンフレット
- 『ハイキングウォーキングとまわろう！奥会津』
- e. パンフレット
- 『河井継之助、最後の絶景と今。』

【素材・サイズ】
 トートバッグ：無漂白コットン 33×44cm
 スマホカバー：ソフトレザー 15.7×20.2cm
 パンフレット(2種類)：紙 21×14.8cm



会津若松市水道PR
 マスコットキャラクターの制作と展開

宍戸 亜優 水野 杏香

会津若松市は2019年に市制施行120周年と水道事業創設90周年を迎えた。この記念すべき年に併せてこれからの水道事業の恒久的な持続と水道事業のPRのため、新たにマスコットキャラクター制作の要望があった。その要望に応えながら公式キャラクター「こしえるん」を完成させた。そして、ポズ展開、工事用の看板、顔出しパネル、スタンプ(ハンコ・台紙)、クッション、のぼり旗、LINEスタンプ、キャラクターマニュアルにデザイン展開し、いくつかは実際に市内で使用されている。自分たちが制作したデザインが、実際に世の中に出ているところを見ると感動した。キャラクターデザインの制作や展開に深く関わることができ、また提案や会議を繰り返し行い、市内の小学生を対象にアンケートなどの調査、研究を上手く作品に反映させ取り組むことができた。



a

b



c

- a. こしえるん (基本形)
- b. こしえるん (ポーズ展開)
- c. 設定集『こしえるんマニュアル』
- d. スタンプ
- e. LINEスタンプ
- f. のぼり旗
- g. クッション

[素材・サイズ]
 設定集: 紙 29.7×21cm
 スタンプ: アクリル台ゴム印 直径3cm
 スタンプ台紙: 紙 10×14.8cm
 のぼり旗: 布 180×60cm
 クッション: 布 35×32×5cm



d



e



f



g

中ノ沢こけしへの愛着を
生み出すデザイン

橋内 菜奈

大正11年に福島県猪苗代町で発祥した中ノ沢こけしは、現在も職人がその伝統技法を受け継ぎ制作している。これまで土湯温泉との距離の近さや胴の模様から土湯系とされていた。しかし、絵柄の大部分が独自のものであり土湯系とは明らかに成り立ちが異なることから、系統を独立する動きが生まれている。また、近年「第3次こけしブーム」と言われるほど若い女性にこけし人気が高まっている。そこで本研究では、系統独立のための知名度向上や、若い女性へ中ノ沢こけしを発信するためのロゴ・ポスター・パンフレット・はんこを提案した。こけしの着色に使用されるスカーレットを全てのツールに用い、イメージの統一を図った。職人によって異なる表情のこけしが生まれる面白さや、観賞用だけでなくこけしの魅力を発信し、親しみが持てるデザインにした。



a. ポスター b. はんこ (19種類の絵柄により好みの模様組み合わせ可能) c. ロゴ d. パンフレット
[素材・サイズ] ポスター: 紙 72.8×51.5cm 全3点 はんこ: 木台ゴム印 (パッケージサイズ) 8.2×8.9×6.6cm
パンフレット: 紙 (表紙サイズ) 21×10cm (展開サイズ) 21×39.4cm

浅舞絞りを蘇らせるデザイン

小松田 久遠

浅舞絞りは江戸時代後期から明治時代中期にかけ、秋田県横手市浅舞で栄えた藍の絞り染めである。最盛期は多くの人に親しまれていたが現在では地元でも知る人は少ない。また技術継承においてもうまく行われていない。そこで本研究では浅舞絞りの認知度を向上させるのぼりを制作し、浅舞絞りを現代に蘇らせることを目的とした。のぼりは横手駅前商店街に設置することを想定し、各店舗と商店街をイメージしたのぼりを制作する。浅舞絞りの資料を用い、意匠の複雑さにじみが生かされるよう大胆で目を引く構成を意識した。さらに浅舞絞りを形成した横手の魅力として共に古くからある湧き水などの名称を組み合わせる。そして多様な意匠により名所の特徴を表現し、藍染めと認知できるように様々な藍の伝統色を用いて制作した。



a. のぼり (Gracim hair、やや、北都銀行)
b. のぼり (羽後交通株式会社)
c. のぼり (アックス)
d. のぼり (横手かまくらエフエム)
e. のぼり (木村屋)
[素材・サイズ] 布 180×60cm 全24点

鬼クルミの普及を促すグラフィックツール

鈴木 智子

近年スーパーフードとしてクルミが注目されるなかで、会津には在来種である質の高い貴重な鬼クルミが実っている。だが、会津に限られた場所に自生しているため収穫の担い手が不足しており、製造販売している地元企業は数少ない。そこで、貴重な鬼クルミの魅力を伝えるため会津くるみプロジェクト協議会が発足された。しかし、外部へのPRがロゴとホームページのみであるため活動内容が会津内外に上手く発信されて来なかった。そこで本研究では、穀割研修会等のイベントで共通して使用出来るツール(レジャーシート・バッグ・ハンドタオル・Tシャツ・キャップの5点)を制作し、参加者同士の一体感や認知度向上に役立てる事を目的とする。鬼クルミをクレヨンで素朴な雰囲気を描く事で親しみを持てる表現にし、全てのツールに共通して使用した。



a



b



c

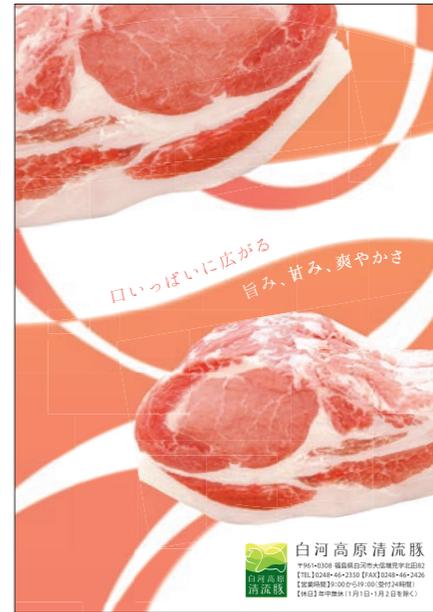
a. Tシャツ、取機用バッグ、トートバッグ b. レジャーシート c. ハンドタオル、キャップ

【素材・サイズ】 Tシャツ: 布 (大人) Mサイズ (子ども) 150cm サイズ 取機用バッグ: ポリエステル 36×29cm トートバッグ: 布 37×48×9cm
レジャーシート: ターボリン 60×90cm 全2点 ハンドタオル: 布 34×37cm キャップ: 27×22cm 全3点

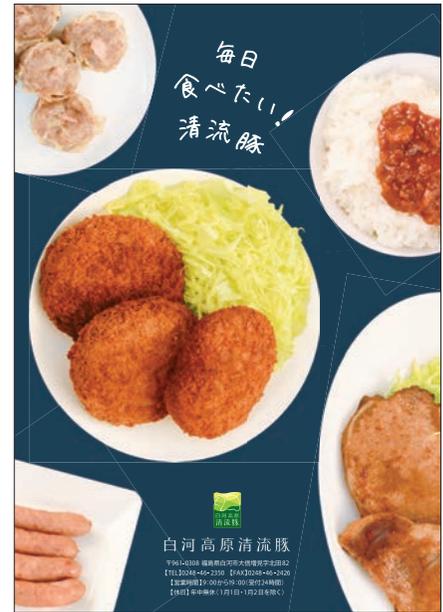
白河高原清流豚の美味しさを
広めるためのデザイン

平久保 翔子

福島県白河市には、肉の秋元本店が飼育・販売をしている白河高原清流豚というブランド肉がある。血統や飼料などにこだわりを持ち、一頭一頭への丁寧な飼育方法で、豚肉特有の臭みが低減されている。肉の旨味がある赤身と、甘みの後に感じられる爽やかな脂が特徴である。肉の秋元本店は、市内外に広めるため様々なグラフィックツールを利用しているが、認知度が低いことが分かった。そこで、白河高原清流豚の認知度向上を図るためのロゴやポスター、商品ラベルを制作した。ロゴと商品ラベルは統一感を出すため、曲線を用いて清流の様子を表現した。ロゴの緑色は豚肉の脂の爽やかさや、高原を表現した。ポスターは、白河高原清流豚の生肉や加工食品、料理の写真を用いてデザインすることで、多くの人が「美味しさ」をイメージできるようにした。



a



b



c



d

a. ポスター b. ポスター c. ロゴ d. 商品ラベル

【素材・サイズ】 ポスター: 紙 72.8×51.5cm 全5点
商品ラベル: 耐水紙 2.5×18.5cm, 11×7cm, 6.5×10.5cm, 6.5×9cm 全11点

茶道と漆の融合

熊久保 粋

漆を学んでいく中で、漆芸で表現されている美しさに惹かれ、漆を使い自分の力で「美」を表現したいという思いに至った。「美」を表現するにあたって、古くから伝わる文化と漆の技術を融合させ、新たな日本の伝統となる美しさを伝えていきたいと考えた。そこで、日本の美意識である「わび・さび」の考え方を伝える茶道に着目した。茶道は、交歓の作法や茶道具、庭園や建築、絵画、書、さらに精神的修養までもを含めた総合的な文化である。その中で、漆の美しさを表現するものは何か考えた結果、様々な技法や表現を用いている「食籠」にたどり着いた。今回の卒業研究では、古来より美の象徴として親しまれてきた花を美しい形状で表現することに挑戦した。制作を通して、伝統工芸技法で「美」を表現することの難しさや大変さを改めて実感することができた。



a



b

a. 閉じた状態
b. 開けた状態

[技法・素材・サイズ]
乾漆技法
漆、麻布
22 × 22 × 23 cm

現状(いま)を伝えるために

佐藤 菜々

2011年3月11日の東日本大震災によって原発事故が発生した。その際に、家畜たちは食用であるという理由で避難することができず、国からの指示で殺処分されることになった。納得のいかない畜産家たちは、映画『被ばく牛と生きる』を通して社会へ訴えていた。映画の舞台である浪江町の「希望の牧場」へ実際に現地調査に行き、牧場主から現地の様子や当時の状況を知ることができた。そこで、本研究では自分の作品を通して、多くの人々に被ばく牛たちの現状や当時の悲痛な状況を知ってもらい、震災の記憶として留めてもらうためのきっかけとなる作品を制作した。被ばく牛たちを主なモチーフに、目に見えない放射能と戦いながら現在も生きている牛たちの様子や当時の状況を取り入れることで多くの人々に命の大切さや命をどう扱うべきかを改めて感じてもらいたい。



a



b

a. 作品部分(螺鈿、卵殻) b. 作品全体 c. 作品部分(蒔絵)

[技法・素材・サイズ] 螺鈿、卵殻、蒔絵、変わり塗 漆、木材、青貝
60 × 150 × 1.5 cm



c

漆のパブリックアートによる 産地のアピール

佐藤 実花

私たちの身の回りにある駅や公園、道路脇などの公共空間をパブリックスペースという。現代ではこのような場所にパブリックアートとして表現作品が設置されることも多く見られ、日常的にアートに触れるきっかけとなっている。漆は工芸品としてのイメージこそ強いが、親しむ機会が少ない。会津でもパブリックスペースに展示されている漆の作品はいくつか存在しているが、平面的な表現によるパネル作品がほとんどである。近年、立体的な造形表現として、漆工芸作品を発表する美術作家も現れ漆の多様性が注目を集めている。そこで、直感的に漆の存在感を伝え、産地であることをアピールできるような立体作品が会津の公共空間にも必要だと考えた。漆の柔軟性を生かすために鳥をモチーフとした曲面にし、また黒一色で漆黒の力強さを表現した。



a



b

a. 作品全体
b. 作品部分

[技法・素材・サイズ]
乾漆技法
漆、金網、針金、麻布
90×170×50cm

女性の権利

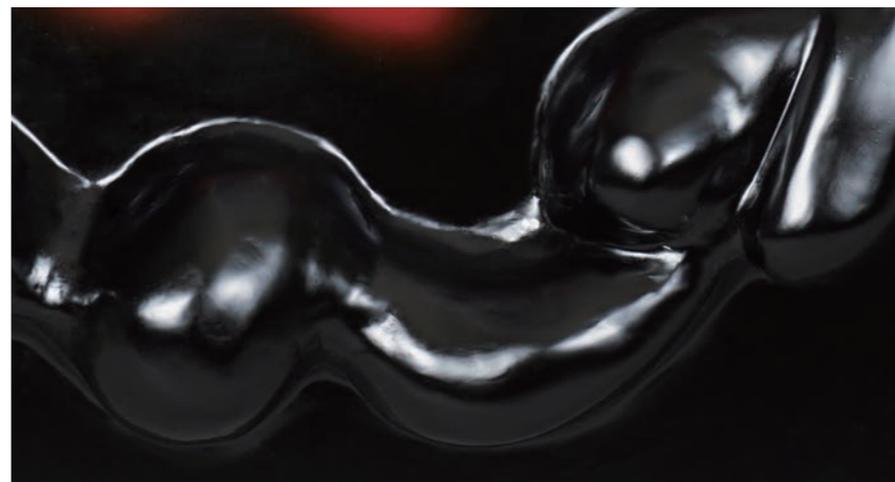
女性の意思の尊重と明るい未来を考えるために

高橋 花乃

漆という素材と出会い、その繊細な技法の中で女性という存在の美しさや儚さ、華やかさなどを表現したいと考え制作を続けてきたが、同時に大学にて世界各地での女性を取り巻く環境について学ぶ機会を持ち、女性というだけで差別される現状が何十年何百年もずっと続いていることにも目を向けなければならないと考えた。卒業研究では女性が担う「妊娠」をテーマとして取り上げ、命の尊さを造形表現として表すことで、女性への差別が減少すること、女性が活躍し輝いていける明るい未来になることを願い、また、出産は人類の大切な希望であることを伝えたいと考えた。漆の特性である自身を守るために滲出される液であるということも表現の要素として捉え、この作品を通し、女性の自立心や心の修復に関する問題について考えるきっかけとなれば良いと考える。



a



b



c

a. 作品全体 b. 作品部分(乾漆) c. 作品部分(螺鈿)

[技法・素材・サイズ] 乾漆技法 漆、麻布、合板、スタイロフォーム、青貝
80×80×9.5cm

漆を用いた古代生物モチーフの積み木

寺島 由貴

私がこの作品を制作した理由は主に2つある。1つ目は、「キモい生物」に関心が寄せられている今、「キモい」と呼ばれがちなカンブリア紀の古代生物の魅力を、子供たちをはじめとした人々に知ってもらいたかったからである。2つ目は、漆から想起される伝統的、古風という固定概念としてのイメージを払拭し、多くの世代にもっと漆に親しんでほしいと考えたからである。積み木は木製でその上に様々な漆芸技法を用いて加飾を施した。加飾方法には螺鈿、卵殻、変わり塗など、複数の伝統技法を用いる。そうすることによって、子供が漆を視覚的にも触覚的にも楽しめるものになるよう心掛けた。また、積み木の造形や加飾については、生物の原型の特徴を効果的にとらえ、デフォルメし、そのデザインに最もふさわしい漆芸技法を用いて表現できるように努力した。



a



b



d

a. 5種類の古代生物 b. フルディアをモチーフにした積み木 c. オパビニアをモチーフにした積み木 d. 積み上げた状態

[技法・素材・サイズ] 螺鈿、卵殻、漆絵、変わり塗 漆、木材、青貝
15×10×2.3cm

漆でつなぐ新しい文化

三嶋 萌

私は短大に入学後、よさこいの活動を知る機会もった。よさこいは、1954年に始まり全国的に大きな広がりを見せている。また、本学卒業生が青年海外協力隊として、よさこいを日本の文化として伝える活動を中心に派遣されている。そのことから、よさこいが新たな日本の文化として確立していくと考え、よさこい演舞に必要な楽器用具である鳴子に着目した。よさこいはチームで演舞するものであるため「仲間の大切さ」という意味も込めて、鳴子を並べる事でデザインが生まれる仕組みとし、よさこいの迫力や活気を表す為、炎をデザインに取り入れた。縄文時代から使用されてきた伝統のある漆装飾を用いた鳴子の提案により「よさこいの文化的な価値観を高めること」「演舞において付随的なものとしか見られていなかった鳴子に着目してもらうこと」を期待し制作した。



a



b

a. 絵柄を並べた様子
b. 鳴子のパチ面

[技法・素材・サイズ]
蒔絵
漆、色漆、麦漆、プラ
21×7.2×2cm



Design Graduation Works 2020

卒業研究発表会

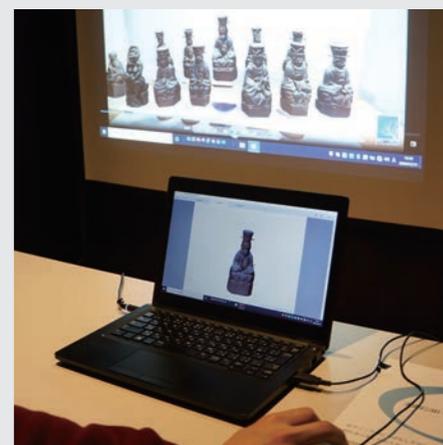
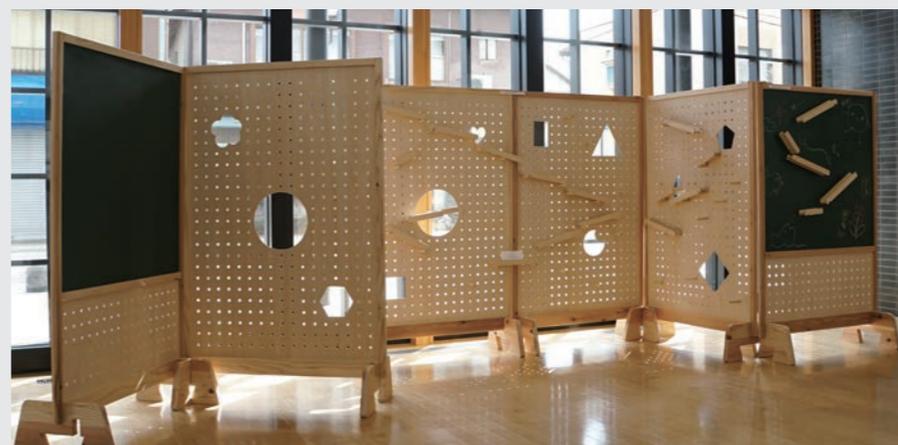
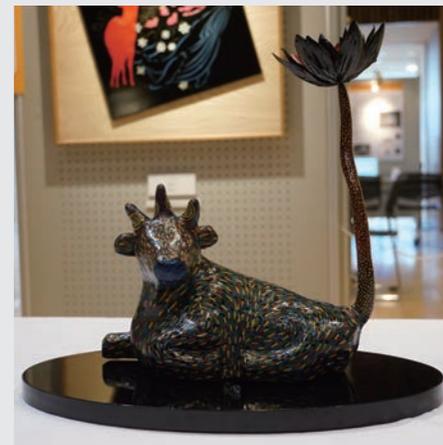
2020年1月25日(土)・26日(日) 会津大学短期大学部310教室

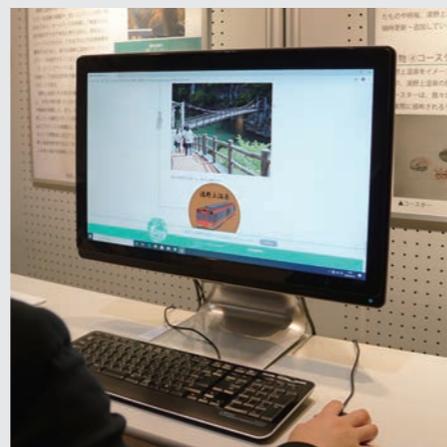
卒業展

2020年2月21日(金) - 24日(月) 会津若松市生涯学習総合センター 會津稽古堂

DMデザイン | 橋内 菜奈







ゼミ紹介

2019年度卒業生がデザイン情報コースの5つのゼミを紹介します。ゼミの特性や学べること、2年間のゼミ活動における指導教員やゼミ生との思い出を中心にまとめました。

インターフェース | 横尾ゼミ |

最先端を学ぶ

インターフェースゼミでは、WEBサイトのデザインやサイトに載せるコンテンツを制作する技術を学ぶことができます。サイトデザインにはIllustrator、掲載する画像を加工する際にはPhotoshop、実際のサイト制作にはDreamweaverを使用しています。インターフェースゼミは自由度が高く、自分がやりたいことや興味をもったことに全力で打ち込むことができます。WEBサイト制作以外にもさまざまなことに挑戦したい人、幅広いデジタルコンテンツなどを学びたい人にぴったりのゼミです。

高めあうゼミ

私たちのゼミは、実習内容によって学校外に取材に行くことが多くあり、会津の歴史的なスポットを観光したり、食事したりしました。また、春の終わりには1・2年のゼミ生全員が集まって新入生歓迎会も行いました。そこでは手料理やデザートが振る舞われ、たいへん充実した時間となりました。時には意見が食い違うこともありましたが、話し合いを重ねてゼミ生たちの仲をより一層深めることができました。卒業研究では、全員分野が違いながらもお互いにサポートしあい、力を最大限に活かした作品を作ることができました。



協力し合った2年間

インテリアゼミでは、住宅・公共施設やマンションのリノベーション、地域プロジェクトまで建築に関わることを幅広く学びます。実習などの課題では、自分たちで設計したものを、図面や模型、CGなどを用いてプレゼンテーションを行なっています。また、デザインしたベンチテーブルを製作し、学校のグラウンドに設置しました。二級建築士の受験資格を取得するために必要な科目も多いため、忙しい2年間になります。しかし、ゼミのみんなと切磋琢磨しながら課題や授業を進め、充実した2年間を過ごすことができます。

初志貫徹

ゼミ活動では、金山町でボランティアをしたり、国立西洋美術館に行ったりしました。実習では猪苗代や七日町の実測調査、須賀川市民センターの調査に行きました。勉強した上で訪れるため、1度訪れた場所であっても新たな視点から楽しむことができました。卒業研究のためにそれぞれ調査にも行きます。閉校舎の調査や和紙漉き体験をするなど様々な経験をしました。また、ゼミのみんなで励まし合いながら課題を進めたことも良い思い出です。うまくいかないことも多く、悪戦苦闘しましたが、力を合わせて乗り越えました。



協力し合うゼミ

グラフィック分野は、広告・出版・印刷に関連することを学び、将来へ向けて力をつけることを目標にしています。高橋ゼミでは、コミュニケーション能力を重視しており、外部の方々との関わる機会が多いことや、グループで活動し、制作していくためコミュニケーション能力が向上します。外部の方々との関わり、グループで取り組むことで、将来業界で働いた場合に近い環境で学ぶことができます。また、自分たちが制作した作品が実際に世の中に出ていく達成感や、グループで活動することによって協調性や団結力が高まります。

団結ゼミ

高橋ゼミは様々なイベントや活動があります。2月には会津絵ろうそくまつりに参加し、地上絵を制作します。春休みには都内学生の作品展を見学します。また、色々な場所に取材・調査などに行く機会がたくさんあります。ゼミの先生である高橋先生は、穏やかで知識があり、豆知識など教えてくれます。ゼミの学生の誕生日をお祝いし、誕生日に関連するものと一緒に似顔絵などをプレゼントしてくれます。グループで活動していくため、コミュニケーションをとることを大切にしており、お互いに協力し合う仲良しなゼミです。



我ら北本ゼミ

北本ゼミは、ポスター・ロゴ・パンフレット・パッケージなどのツール制作を通して、文字や図形を効果的に使用し、視覚に訴えるデザインを学びます。実習などの授業で培った表現力、思考力を活かし、制作に打ち込んでいる時間は何より楽しくやりがいを感じます。卒業研究では自らで決めたテーマを1年間かけて取材から制作までをこなします。時には辛い事もありましたが、ゼミ生みんなでお互いを励まし合ってきました。こうして2年間グラフィックデザインの基礎を学び、相手に伝える視覚表現の修得を目指すのです。

学、楽、雅久

北本ゼミは2年間を通して課題数が多く大変ではありますが、その分作品と向き合う時間も長く、先生の愛のこもった指導を頂きながらデザイン力向上を目指してきました。デザインの「デ」の字も分からなかった私たちは立ち止まることも多々ありましたが、その度に北本先生は手を差し伸べて解決へ導いてくれました。デザインだけでなく、進路相談や他愛もない話にも付き合ってくれ、時間を忘れて話し込む日もありました。北本ガク先生から多くのことを学んだ楽しい2年間は、卒業後も力となってくれることでしょう。



学び

井波ゼミは、漆芸を専門に学ぶゼミです。道具作りから始まり、ろくろや板物などの木工や、椀、蒔絵、乾漆、造形物など、形から加飾まで自分で考案し漆を用いて作品制作を行います。平面から立体まで幅広い作品を作ることができます。また、美術館や展覧会に行き実際に職人や同じ学生の作品を見て自分の感性を高めていきます。2年という短い期間で己の技術を磨き、それぞれの卒業研究に活かしていきます。漆芸制作は工程が多く、時間がかかり根気のいる作業ですが、作品が完成した時の達成感は井波ゼミならではです。

達成感

ゼミ活動での一番の思い出は、県の総合美術展や卒業制作の作品作りのためにみんなで夜遅くまで居残りしたこと。迫りくる締め切りに怯えつつも、みんなで必死に作業に取り組んだときに感じた一体感や、眠気や疲れに負けそうになりながらも、絶対に完成させるぞという気持ちで作業に励んだときのことは、忘れることができません。気を抜けない作業の僅かな合間に、くだらない冗談で笑いあったことも、今では楽しい思い出です。大変なことも多いですが、作品が仕上がったときの嬉しさは、何にも代えがたい宝物です。



卒業作品集

DESIGN GRADUATION WORKS 2020

編集 | 北本 雅久 後庵野 かおり
加藤 早織 山内 花南子

デザイン | 北本 雅久

発行 | 会津大学短期大学部
産業情報学科 デザイン情報コース
福島県会津若松市一箕町大字八幡字門田1-1
TEL 0242-37-2300(代) URL <http://www.jc.u-aizu.ac.jp/>

発行日 | 2020年3月18日

本書の無断転写、転載、複製を禁じます。



JUNIOR COLLEGE OF AIZU

